

会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議			
開催日時		令和6年9月13日（金）開会 9:30 閉会 11:30			
開催場所		つくば市立学園の森義務教育学校多目的室1			
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課			
出席者	委員	高野 二男 村上 義孝 中原 正人 石黒 正美 谷上 智子 田村 俊介 富江 晃 中野 真粧美 牧之段 拓 樋口 直宏 澤木 努 野堀 憲 池邊 晃子			
	その他				
	事務局	生涯学習推進課：課長 澤頭 由紀子 生涯学習推進課参事：山口 健次 地域連携教育指導員：酒井和宏			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0人	
非公開の場合はその理由					
議題		熟議「学園生の学びを支え見守る地域と学校の協働体制づくりについて～地域資源や人財の理解と持続可能なつながりを考える～」			
会議録署名人			確定年月日	年 月 日	
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 前回会議内容の確認 4 これまでの学校の取組について 5 協議 熟議テーマ 「学園生の学びを支え見守る地域と学校の協働体制づくりについて～地域資源や人財の理解と持続可能なつながりを考える～」				

6	その他 コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について
7	閉会

<審議内容>

1 開会

(村上座長)

ただ今から、令和6年度 第2回 学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議を開会します。

はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。学園の森義務教育学校 牧之段先生 をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

→牧之段先生 承認

→お引き受けくださりありがとうございます。

2 挨拶

(村上座長)

挨拶に移ります。はじめに、座長の私から御挨拶させていただきます。

- ・「未来塾」で大穂中に行ってきた。
 - ・8年生の職場体験を勤務する事務所で受け入れた（女子3人、2日間） 真面目な勤務態度で、利用者からも好評だった。
- こういった事例も、地域とのつながりの一例なのではないか。

続きまして、学園長の中野校長先生お願いします。

(中野校長)

- ・1回目の会議で意見を頂戴し、方向性が見えてきた。
 - ・今日は学校が抱える課題についても共有し、皆様と議論したい。
 - ・学園のテーマである「挑戦王」の紹介→折に触れて学園生に紹介している。
- 夏休み明け集会で使用したスライドの紹介（学園生、教職員の挑戦について）

3 前回までの会議内容の確認

(村上座長)

本日は、学園の森義務教育学校の第2回CS推進会議の熟議等に入る前に、まずは第1回の会議内容について、要点を踏まえて振り返りをしたいと思います。では、進行に戻ります。別紙1（前回の会議録）を見てください。前回の要点をまとめますと

①委員の自己紹介から座長、副座長選出

②学校グランドデザイン説明と教育活動紹介

③熟議「互いを大切にしたい主体的で創意性のある学校づくり」

などについて話し合いを深めました。

なお、詳しい内容に関しては、市のHPに掲載されますので御確認ください。

4 これまでの学校の取組について

(村上座長)

田村先生おねがいします。

(田村教諭)

- ・「総合的な学習の時間」を中心に説明
- ・「総合的な学習の時間」2000年前後から開始

→目標は主に3つ。

①自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考える力の育成

②学び方やものの考え方の習得

③自己の生き方を考える力の育成

- ・教科の枠を超えた学習や、地域社会との連携を重視した活動が行われる。
- ・教科書には無い、答えのない課題を扱う。
- ・つくば市では「つくばスタイル科」と称して取り組んでいる。平成24年度から教育課程特例校。
- ・つくばスタイル科では、21世紀型スキルを基盤とし、次世代を担う子どもたちが必要とする能力を育成することを目指す。
- ・市内統一のガイドライン（単元プラン集） これまでの知見が詰まっている。
- ・4つのコアカリキュラム 環境、キャリア、歴史・文化、健康・安全・防災
- ・熟議テーマの紹介

→「学園生の学びを支え見守る地域と学校の協働体制づくりについて～地域資源や人財の理解と持続可能なつながりを考える～」

(例)

2年生：町探検（生活科含む）

3年生：町探検

8年生：職場体験

どの学年も、事前学習、現地、事後学習（プレゼンテーションを作成→発表）

IN→ABOUT→FORとも称される。

2年生

→スーパーや美容室などで働く人の話を聞いたり質疑応答をしたりする活動

3年生

→芝生畑（学園生の声「公園じゃないの？」）、田植えしたばかりの田んぼ、収穫されたキャベツ

8年生

→48の事業所に協力いただいて実施

ペットショップ、保育園、国土地理院、焼肉屋、自衛隊土浦駐屯地、等

事業所の一覧紹介→おおよそは近隣の事業所。どの事業所でも、貴重な経験をさせてもらっている。

- ・学校評価アンケート（昨年度 12 月に実施）

設問：「学校は地域住民や外部機関と協力し、地域とともに歩む学校づくりに取り組んでいる。」

→肯定的意見は 67.5%（アンケート 21 項目あるうち、ワースト 2 位）

「そう思う」17.8%がワースト 1 位

→教職員のアンケートでも、下から 2 番目

本校の課題の 1 つ→この C S 会議は（課題解決に向けて）好機

5 協議

（村上座長）

これより熟議に入ります。熟議を進行するにあたり、ファシリテーターを池邊先生にお願いしたいと思います。皆さん、よろしいでしょうか。

では、池邊先生よろしくお願いいたします。

（池邊教頭）

熟議テーマについて説明。

【熟議】「学園生の学びを支え見守る地域と学校の協働体制づくりについて
～地域資源や人財の理解と持続可能なつながりを考える～」

- ・人材ではなく、人財。
 - ・地域の人財を教職員が理解していないのではないか、と考えこのテーマを設定した。
 - ・困難さ：つくスタの目標に迫るための活動を計画できない。地域の人財や資源を知らないため
- 4・7年生が特に困り感あり。今回は、主に4年生に焦点を絞って議論していただきたい。
- ・熟議内容：こんな人財があり、目標に照らしてこの学年のこんな活動に繋がります、というアイデアを出す。
 - ・方法：付箋にアイデア等を書いて出し合い、ラシャ紙に貼っていくことで、各自のアイデアを可視化したり、関連付けたりする。

～11:15 まで各グループで熟議～

<熟議の内容共有（各グループ毎の発表）>

①田村教諭

- ・人財の確保に向けて

→募集の仕方、保護者の掘り起こしが難しい。回覧板やポスティングを活用すればよいのでは。

- ・7年生における、保護者による職業講演会

→多様な保護者がいる強みを生かして、そこから少しずつ広げていけないか

- ・4年生でできること アイディア：地区の安全性について地域の方と一緒に考える

②牧之段教諭

- ・スタート、プロセス、ゴールに分けて整理した。
スタート：子どもの「もっと知りたい！」をトリガーに出来るような仕組みづくり
プロセス：地域と学校が Win-Win になるにはどうすればよいか、大規模校ならではの課題
ゴール：エージェンシー、オーナーシップ、シチズンシップ（と言われるような資質）の獲得

③中原教頭

- ・戻るところは「子どもたちの思い」 子どもの興味関心
 - ・最終的には、こういう話合い自体を子どもたちがやってみると面白い
- 2、3年生で学んだことを生かして、4年生ではどのように学習を進めるべきか
- ・人財バンクの活用（例：ロータリークラブ、ライオンズクラブ）

（池邊教頭）

熟議の内容は今後職員と共有します。ありがとうございました。

6 その他

（村上座長）

最後にご出席のみなさんから何かありますでしょうか？（発言無し）

次回の開催予定日等について、池邊先生、よろしくお願いします。

（池邊教頭）

本年度3回目のコミュニティ・スクール推進会議についてご連絡します。次回ですが、第3回は学園の森義務教育学校で令和6年11月15日（金）9時30分からの予定です。また、第4回目は令和7年2月19日（水）9時30分から開催予定です。詳細は、追って御連絡いたします。

7 閉会

（村上座長）

本日の「協議」の内容は、以上になります。

また、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度 第2回学園の森義務教育学校コミュニティ
・スクール推進会議を閉会いたします。

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度第2回学園の森義務教育学校

コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年 9月13日（金）

9：30～11：30

場所：学園の森義務教育学校 多目的室1

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 前回までの会議内容の確認

4 これまでの学校の取組について

5 協 議

熟議テーマ

「学園生の学びを支え見守る地域と学校の協働体制づくりについて～
地域資源や人財の理解と持続可能なつながりを考える～」

6 その他

コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

7 閉 会

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	7 年生	8 年生	9 年生
本質的課題	人との関わりにおいて大切なことは何だろう		地域の魅力に必要なものは何だろう		社会を知ること、その社会と関わるために必要なことは何だろう		人々が共生する社会とはどのようなものだろう		未来をつくるのは何だろう
単元課題	○どうして人に喜んでもらうとうれしいのだろう ○学校の人々となかよくなるためには、どうしたらいいのだろう ○自分のことを自分でするために、何から始めたらいいのだろう ○家族のために自分にできることは何だろう	○役割って何だろう ○1年生のために自分ができることは何だろう ○友達やクラスのために自分ができることは何だろう ○身の周りには、どんな役割があるのだろう	○つくばの自慢として最も伝えたいことやものは何だろう ○自己紹介をしよう ○学校の周りにはどんな仕事があるのだろう ○わたしたちのまわりのお仕事マスターを見つけよう ○わたしたちのまわり(学級・学校・家庭)のマスターを見つけよう	○人々のくらしを支えるものは何だろう ○人々のくらしを支える施設や人には、どのような役割があるのだろう ○学校生活をよりよくするために、どんな役割が果たせるだろう	○自分のよさって何だろう ○高学年に必要なことは何だろう ○「ものづくり」に携わる人は、どんな努力や工夫をしているのだろう ○「ものづくり」に携わる人たちが大切にしていること、わたしたちが学ぶべきことは何だろう ○自分らしさとは何だろう	○仕事にはどんな価値があるのだろう ○自分の将来に向かって身に付ける必要がある力やスキルは何だろう ○どうすれば自分が目指す生き方を見付けられるだろう	○社会のしくみから見える自分の特徴(長所)は何だろう ○人と関わる時に大切なことは何だろう ○地域のために自分ができることは何だろう	○社会の中で自分ができることは何だろう ○人間関係を円滑にするにはどうすればいいのだろう ○職業の社会的役割・働く意義とは何だろう	○地域や社会に向けてできることは何だろう ○ニーズを実現する設計・デザインのためには何をすればいいのだろう ○どのように自分を設計・デザインしていくのだろう
学習活動(概要)	学校の人々と仲良くなるためには、どうしたらいいのだろう 1 みんなの名前を覚えよう、自分の名前を覚えてもらおう 2 自己紹介をしよう 3 おにいさん、おねえさんにあいさつをしよう 4 学校で仕事をする人たちにあいさつをしよう 自分のことを自分でするために、何から始めたらいいのだろう 5 学校のきまりを知ろう 6 お片付けの大切さを知ろう 7 そうじの大切さを知ろう 家族のために、自分にできることは何だろう 8 家の仕事を知り、自分にできることは何かを考えよう 9 お手伝い作戦の計画を発表しよう 10～11 お手伝い作戦報告会	1年生のために自分ができることは何だろう 1 1年生のためになかよし会(歓迎会)を開こう 2 これから1年生にしてあげられることは何だろう 友達やクラスのために自分ができることは何だろう 3 新しい学年・学級に必要な仕事を考えよう 4 係活動を振り返ろう 身の周りの人には、どんな役割があるのだろう 5 見つけたよ、知ってるよ、こんな人 6～8 学校の周りを探検していろいろな人に会おう 9 探検して分かったことをまとめよう 10～11 調べたことを発表しよう 12 これからのわたし	自己紹介をしよう 1 伝えよう自分のこと、見つめよう自分のこと 学校の周りにはどんな仕事があるのだろう 2 学校の周りにはどんな仕事があるかな 3 町探検から新しい仕事を発見(校外学習) 4～5 他校の周りにはどんな仕事があるかな 6 どんな仕事があったか、まとめよう わたしたちのまわりのお仕事マスターを見つけよう 7～8 お仕事マスターを見つめよう 9～10 マスターのお仕事についてまとめよう 11 まとめたことを発信しよう わたしたちのまわりのマスターを見つけよう 12 友達のをさを発見しよう・自分のよさを確認しよう	人々のくらしを支える施設や人には、どのような役割があるのだろう 1 人々のくらしを支えるために地域にはどんな施設があるのだろう 2 自分の考えを伝えよう 3～6 地域の人々のくらしを支えるために、施設や人はどうつながっているのだろう 7～8 学んだことをまとめよう 9 学んだことを発信しよう 学校生活をよりよくするために、どんな役割が果たせるだろう 10～11 学校や学級で担う役割を見直し、改善の手立てを考えよう 12 地域の一員としてのわたしたち	高学年に必要なことは何だろう 1 高学年の心構え、役割、責任を知り、目標を立てよう 2 新しい仲間を作ろう 「ものづくり」に携わる人は、どんな努力や工夫をしているのだろう <例1> 3 家電製品とわたしたちの生活との関わりを知ろう 4 家電製品の進化とわたしたちの生活を考えよう 5 工業生産を支える人々の役割と工夫を知ろう 6 ものづくりを支える人々のエコアイデア～企業講師から話を聞こう～ <例2> 3 自動車づくりの疑問を見つめよう 4～5働く人にインタビューしよう 6働く人から学んだことをまとめよう 「ものづくり」に携わる人達が大切にしていることで、わたしたちが学ぶべきことは何だろう 7～9 今の自分たちにできることを考えよう 10～11働く人の姿から学んだことをお世話になった企業の人に発信しよう 12～13 グループごとにまとめよう 14自分たちの考えを発信しよう 自分らしさとは何だろう 15 自分の長所に気づき、自分らしさを発揮しよう	仕事にはどんな価値があるのだろう 1 知っている仕事とその価値について考えよう 2 身近な人から、働くことと生き方について学ぼう 3～5 職業人から生き方を学ぼう 6～8 学んだことをまとめよう 9～10 まとめたことを他校と情報交換し、情報を深めよう どうすれば自分がめざす生き方を見付けられるだろう 11～12 自分の将来の夢や目標を思い描こう 13～14 自分が目指す生き方を語り合おう 15 活動を振り返り、3年後の自分に手紙を書こう	人と関わる時に大切なことは何だろう 1 ソーシャルスキルを学ぼう 2 人と上手に関わっていくためには、どんなことに配慮しなければいけないかを知り、その能力を身につけよう 地域のために自分ができることは何だろう 3 社会のしくみに触れよう「職場見学をまとめよう」 4 マーケティングの手法を知ろう 5 [歴史・文化]の単元で調査した、つくば市のよさをもとに、地域が抱えている課題は何かを探り出そう 6～8 マーケティングから見えた課題を解決するためのプランを考えよう 9～10 改善プランを発表しよう 11 地域の改善プランをつくるための視点はどこにあったか振り返り、内容や方法を見直そう 12～13 改善プランを実行しよう 14 活動を振り返ろう 15 継続した活動を通して、地域がどのように変わってきたか、その変化の様子を見てみよう	人間関係を円滑にするにはどうすればいいのだろう 1 スキルアップのトレーニングを行って、社会的スキルを身に付けよう。 2～3 企業人や講師と連携し、社会人として必要なスキルについて考えよう 4 実社会で活躍する人がもっているソーシャルスキルについて考えよう 職業の社会的役割・働く意義とは何だろう 5 職業体験後の振り返りから、自分は何を感じ、学んだのかまとめる 6 職業の社会的意義を話し合いの中で考える。 7～10 体験のまとめのプレゼンテーションを作成する 11～12 プレゼンテーションを行う 13 振り返りを行う 14 自分の感じたこと・考えたことをワークシートにまとめる 15 他者の生き方を受け入れ、自分の内面に迫る	地域や社会に向けて何ができるだろう 1 さまざまな人の生き方や考え方を知ろう 2 今、地域や社会で問題になっていることにはどんなことがあるだろう ニーズを実現する設計・デザインのためには何をすればいいのだろう 3～5 設計をするために、リサーチをしよう 6～10 将来、大人になった時に、みんなが喜んでくれるもの・こと・人を考え、企画・デザインしよう 11～12 チームで再検討して、デザインしよう 13～14 スタディノートを活用し、プレゼンテーションを行う どのように自分を設計・デザインしていくのだろう 15 他者の企画・デザインを参考にして、関心を深めていこう
コミュニケーションスキルについて 児童・生徒の発達段階や実態に応じて、以下を適宜、実施することとする。 1) グループエンカウンター エンカウンターとは出会うという意味。学級づくりに活用。人間関係づくりや相互理解、協力して問題解決する力の育成。集団の持つプラスの力を最大限に引き出す方法。 2) ピアサポート活動 児童・生徒同士が互いに支えあえる関係をつくるプログラム。『ウォーミングアップ・主活動・振り返り』という流れを一単位として積み重ねる。 3) ソーシャルスキルトレーニング 相手理解・自分の思いや考えを適切に伝える。人間関係を円滑にする。問題解決・集団行動に参加する 4) アサーショントレーニング 対人場面で自分の伝えたいことをしっかりと伝えるためのトレーニング。断る・要求するといった葛藤場面での自己表現や、ほめる・感謝する・嬉しい気持ちを表す・援助を申し出るといった他者とのかかわりをより円滑にする社会的行動の獲得 5) アンガーマネジメント 自分の中に生じた怒りの対処法を段階的に学ぶ方法。『切れる』行動に対して、「切れる前の身体的感覚に焦点を当てる」「身体感覚を外在化しコントロールの対象とする」「感情をコントロールして会話する」などの役割を踏んで、怒りなどの否定的感情をコントロール可能な形にかえる。また、呼吸法や動作法、リラクセス法なども学ぶ。 6) ストレスマネジメント教育 さまざまなストレスに対する対処法を学ぶ。ストレスについての知識を学び、その後リラクゼーション・対処法を学ぶ。 7) ライフスキルトレーニング 自分自身の体や心、命を守り、健康に生きるためのトレーニング。「セルフエスティームの維持」「意思決定のスキル」「目標決定のスキル」などの獲得。喫煙・飲酒・薬物・性などの課題に対処する方法。 8) キャリアカウンセリ 職業生活に焦点を当てて、自己理解を図り、将来の生き方を考え、自分の目標に必要な力の育て方や、職業的な目標の意									
学びの3つのステップ	In				About			For	

■つくばスタイル科(キャリア)単元一覧

学年					1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	7 年生	8 年生	9 年生	
単元名					大好き！ わたしの学校・家族	ふやそう！ 自分のできること	紹介しよう！ 人・地域・つくばの自慢	ふれあおう！ 人と人	見つめよう！ 社会・仲間・自分	広げよう！ 夢・希望	自分に気付こう！ 実社会に触れて学ぶ	自分を知ろう！ 実社会での体験	デザインしよう！ 将来の自分	
主な内容					キャリア／健康・安全	キャリア／豊かな心	キャリア／歴史・文化	キャリア／環境／健康・安全	キャリア／環境／歴史・文化	キャリア／福祉／国際理解	キャリア	キャリア／健康・安全／福祉	キャリア／環境／福祉／科学技術	
単元目標					○作業の準備や片付け、決められた時間やきまりを知り、守る。 (A2,B2) ○友達や周りの人にあいさつをしていくことで、関わり合いをもつ。 (C1,D1) ◎当番活動や家庭の仕事の手伝いに取り組み、みんなのために役立つ。 (D2,F1)	○自分の生活を振り返り、人に対して自分たちにできることを考える。 (A1, B1) ○交流会などの体験活動を通して、人との接し方を学ぶ。 (A2, C2) ◎身の周りで働いている人から、さまざまな人の役割を知ることの大切さを知る。 (E1,F2)	○町探検などの活動を通して、いろいろな職業があることを知る。 (A1) ○自分たちが見付けた仕事を、他校と連携を図り、伝え合い、共通点や相違点を考えることで、仕事についての知識を深める。 (B2,D2,E2) ◎自分が住む地域のよさ（自慢）を発見し、広めようと積極的に関わり行動する。 (C2,F2)	○互いの考えの共通点や相違点を知り、相手の気持ちを考えて行動する。 (A1) ○地域の安心・安全を支える人々の仕事についてまとめ、他者と意見交換し、さらに考えを深める。 (A2,C2, E1) ◎地域の人たちとつながり、支え合い、助け合っていくことの大切さを実感し、地域社会の一員として、自分たちにできることを考える。 (D2,F2)	○工業製品が自分たちの生活にもたらす便利さやくらしの変化に気付く。 (A1) ◎働く人とコミュニケーションを図ることを通して、仕事に対する思いや努力や工夫している点等について考えを深める。 (D2,E1) ○働く人たちから学んだことを生かし、自分たちにできることを考える。 (B2,C2,F2)	○身近な人と関わりながら、職業に対する考え方や生き方を知る。 (A2,F1) ◎職業人の仕事のやりがいや生き方について学んだことから、自分の生き方について考えを深める。 (B1,D1) ○将来の夢や希望をもち、中学生と語り合う。 (E2,F2)	◎コミュニケーションスキルを身に付け、人と上手に関わりながら活動し、自分にできることは何か考えることができる。 (B1, D1) ○マーケティング等の調査活動を通して、実社会にあったらよいものやみんなが望んでいるものを探り出す方法を理解する。 (A1,F1) ○学区をよりよくするための改善策を提言する。 (A2,E2)	○実社会で活動していくためには、相手を尊重しつつ自分の意見を言ったり、人間関係を円滑にしたりすることが必要であることを知る。 (B1,B2) ○職業人に触れたり聞いたりする中で、職業の社会的役割や意義に対して考えを深める。 (F1,F2) ◎体験で学んだことや今後の自分がこれからどう生きていくかについて、友達や保護者に発信することで、自己の生き方を追究する。 (C1,D2)	○リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら企画・デザインをすることの大切さを理解する。 (A2,C2) ◎さまざまなアイデアを出し合い、よりよいものを企画・デザインするために、企業の人からアドバイスをもらい、考えを修正しながら活動を進める。 (B2,E1) ○将来の夢や希望に向かって、自己の生き方を考える。 (D1,F2)	
Ⅰ 思考に関するスキル	A	問題解決	A1	客観的 思考力										
			A2	問題発見力	○				○				○	
	B	自己マネジメント	B1	自己認識力							◎	○		
			B2	自立的修正力	○		○					○	◎	
C	創造革新	C1	創造力	○								◎		
		C2	革新性(イノベーション)		○		◎	○					○	
Ⅱ 行動に関するスキル	D	相互作用	D1	言語活用 力(コミュニケーション)	○						◎		○	
			D2	協働力(コーポレーション)	◎		○		◎			◎		
Ⅲ 手段・道具に関するスキル	E	情報ICT	E1	情報活用 力		◎		○		◎			◎	
			E2	ICT 活用 力			○			○		○		
Ⅳ 世界市民としての力	F	つくば市民	F1	地域や国際社会への市民性	◎					○		○		
			F2	キャリア設計力		◎		◎		○		○		○
学びの3つのステップ					In					About			For	

会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議			
開催日時		令和6年5月15日（水）開会 9:30 閉会 11:30			
開催場所		つくば市立学園の森義務教育学校メディア室			
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課			
出席者	委員	高野二男 山崎裕一 石橋紀世 内藤 実 富江 晃 樋口直宏 野堀 憲 村上義孝 石黒正美 谷上智子 学園の森義務教育学校 校長：中野真粧美 副校長：澤木 努 教頭：池邊晃子、中原正人 教務主任：田村俊介、牧之段 拓			
	その他				
	事務局	教育局教育総務課課長：山岡めぐみ 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪恵理名 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0人	
非公開の場合はその理由					
議題		1 学校運営の基本方針について 2 学校の教育活動の紹介 3 熟議「互いを大切にした主体的で創造性のある学校づくり」 4 その他			
会議録署名人			確定年月日	令和 年 月 日	
会議次第	1 開会 2 選任通知書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 座長・副座長の選出				

6	協議
(1)	学校運営の基本方針について
(2)	学校の教育活動の紹介
(3)	熟議「互いを大切にした主体的で創造性のある学校づくり」
(4)	その他
7	閉会

<審議内容>

1 開会

事務局：ただ今から、令和6年度第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。

はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案としてつくば市立学園の森義務教育学校牧之段先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

参加委員：お願いします。

事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。

2 選任通知書交付

事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。

（「選任通知書」を石黒委員に交付）

続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。

学園の森義務教育学校で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として冨江委員を学園の森義務教育学校から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思います。

（冨江委員がこの時点では不在であった為、「委嘱状」は閉会間際に交付）

この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください

3 教育長挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育総務課、山岡が代読いたします。

事務局：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。本日はお忙しい中、第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を

快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支える。」ことが、いま必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みをいかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思っています。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

学園の森義務教育学校においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何ができるか、意見を出し合っていただければと考えています。つくば市の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしくお願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
 - 2 コミュニティ・スクールとは
 - 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは
- についてご説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管して

いる学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子どもを育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

学園の森義務教育学校は今年度、コミュニティ・スクール推進会議といって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会という、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べるができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目

標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、学園の森義務教育学校はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか。何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しをするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずで

す。地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること

②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること

③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること

④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ

⑤地域と学校が連携した様々な活動 地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる 子どもたちのためにご協力をよろしくお願いいたします。

以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。（無し）

5 座長・副座長の選出

事務局：協議の前に、座長と副座長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、令和6年度つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項第6条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選によって定める」とあります。本年度については、コミュニティ・スクールを立ち上げていくということもあり、各校と教育局で協議の上、座長、副座長につきまして提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

事務局としては、村上委員に座長を、石黒委員に副座長お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

6 協議

(1) 学校運営の基本方針について

村上座長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、学校より御説明をお願いします。

学園の森義務教育学校長(中野校長)：学園グランドデザイン（学園要覧）の説明

- ・教育目標「自分の可能性に挑戦し、創意をもって未来を切り開く学園生の育成」
- ・「人を大切にして笑顔あふれる学校」にしたいという思い
- ・スクールモットー 挑戦・創造・協働
- ・「挑戦王になる！」挑戦王宣言！→学園生の挑戦王宣言の紹介
- ・挑戦王の内容は全校集会等で紹介、称賛
- ・「校内の笑顔を増やしたい」という気持ち
- ・150名の職員、教員も挑戦王宣言
- ・3つのプロジェクト
- 生成AI・探究的な学び、ルールメイキング・特別活動、早寝早起き朝ごはん
- ・体力向上プログラム
- ・（挑戦だけでなく）創造にも力を入れていく係活動、学級活動、委員会活動、つくスタ生活科など

- ・CS 会議の皆様からの意見を生かしながら「人を大切にして笑顔あふれる学校」にしていきたい

(2) 学校の教育活動の紹介

学園の森義務教育学校（田村教諭）学校の説明

・学園の現状

→開校 7 年目、在籍数は 1797 名 組織目標は 2 つ

①リーディング DX スクール生成 AI パイロット校（全国で 52 校）

生成 AI プロジェクトチームの活動（全職員で）

②係活動の充実、ルールメイキング、ロング昼休みの設定

・学校行事

→入学式を 5 年ぶりに 6 クラス同時実施、授業参観、引き渡し訓練、9 年生修学旅行、運動会、体育祭の実施予定

・義務教育学校のよさを生かして

→6 年生の部活動見学、体験を早い時期から実施

→上級生が下級生への関わり パソコンの使い方、体力テストの計測など

→下級生が上級生への関わり 部活への応援メッセージなど

・地域の方に御協力いただいていること

→職場体験など

村上座長：御説明ありがとうございました。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。これを踏まえて、この推進会議においても、委員の皆様にごランドデザインへの賛同をお願いしたいと思います。令和 6 年度学園・各校のランドデザインに御賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：（拍手）

村上座長：ありがとうございました。校長先生におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

(3) 熟議

村上座長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを池邊教頭先生にお願いして、よろしいでしょうか。

池邊教頭：（承認）

村上座長：お引き受けくださりありがとうございます。では、先生よろしくお願いいたします。

池邊教頭：熟議のテーマと進め方の説明 理念を実現するには、職員だけでなく、地域や保護者、専門家のバックアップが必要。熟議の目的は、創造的な係活

動や委員会活動、つくスタやキャリア教育などでどのような体験を仕組んでいくか、こちらがどのようなサポートができるか

- ・各グループでの熟議約 60 分間

村上座長：熱心な御協議ありがとうございました。それでは、各グループで協議されたことの発表をお願いいたします。

Aグループ（発表者：牧之段教諭）

- ・つくばスタイル科における地域リソースの活用
- ・教員の意識改革も必要
- ・協力したいという思いをもっている保護者もいるはず

Bグループ（発表者：田村教諭）

- ・本校の良い点と課題を整理

→良い点：能力、元気、人間性、知的

→課題：基本的習慣（あいさつ）、体験（ゲストティーチャー機会不足）、自己有用感、個人内（能力の二極化、多様性への対応、習い事の多さに伴う余裕の無さ）

Cグループ（発表者：中原教頭）

理想：目指す児童生徒の姿＝笑顔（子供、保護者、教員も）

思い出→行事、遠足、特別な授業、体験的活動

→地域を大切にする、異学年交流

⇒つくスタを発展、探究的な学び（子供たちもいろんな才能がある、失敗も学び）

外部との連携：登下校 何ができるか←学校からの要望があると助かる

Dグループ（発表者：池邊教頭）

- ・みんなを笑顔にする学校
- ・地域のつながり＝子供たちのつながり
- ・地域のメリット 多様性のある子どもが集まっている（国・地域、個性）
- ・地域のつながりが希薄（コロナによる悪影響）
- ・地域でできることはないのか？⇒お祭りなどのイベントの企画
- ・地域のつながりが無いと有事の際に大変になるのではないか

村上座長：ただ今の発表について、御質問や御意見が」あればお願いします。

村上座長：発表者の皆さん、ファシリテーターの池邊先生ありがとうございました。最後に委員のみなさんから何かありますでしょうか（無し）

それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。

参加委員：（拍手）

事務局：村上座長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。以上をもちまして、令和6年度第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度第2回学園の森義務教育学校

コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年 9月13日（金）

9：30～11：30

場所：学園の森義務教育学校 多目的室1

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 前回までの会議内容の確認

4 これまでの学校の取組について

5 協 議

熟議テーマ

「学園生の学びを支え見守る地域と学校の協働体制づくりについて～
地域資源や人財の理解と持続可能なつながりを考える～」

6 その他

コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

7 閉 会

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	7 年生	8 年生	9 年生
本質的課題	人との関わりにおいて大切なことは何だろう		地域の魅力に必要なものは何だろう		社会を知ること、その社会と関わるために必要なことは何だろう		人々が共生する社会とはどのようなものだろう		未来をつくるのは何だろう
単元課題	○どうして人に喜んでもらうとうれしいのだろう ○学校の人々となかよくなるためには、どうしたらいいのだろう ○自分のことを自分でするために、何から始めたらいいのだろう ○家族のために自分にできることは何だろう	○役割って何だろう ○1年生のために自分ができることは何だろう ○友達やクラスのために自分ができることは何だろう ○身の周りには、どんな役割があるのだろう	○つくばの自慢として最も伝えたいことやものは何だろう ○自己紹介をしよう ○学校の周りにはどんな仕事があるのだろう ○わたしたちのまわりのお仕事マスターを見つけよう ○わたしたちのまわり(学級・学校・家庭)のマスターを見つけよう	○人々のくらしを支えるものは何だろう ○人々のくらしを支える施設や人には、どのような役割があるのだろう ○学校生活をよりよくするために、どんな役割が果たせるだろう	○自分のよさって何だろう ○高学年に必要なことは何だろう ○「ものづくり」に携わる人は、どんな努力や工夫をしているのだろう ○「ものづくり」に携わる人たちが大切にしていること、わたしたちが学ぶべきことは何だろう ○自分らしさとは何だろう	○仕事にはどんな価値があるのだろう ○自分の将来に向かって身に付ける必要がある力やスキルは何だろう ○どうすれば自分が目指す生き方を見付けられるだろう	○社会のしくみから見える自分の特徴(長所)は何だろう ○人と関わる時に大切なことは何だろう ○地域のために自分ができることは何だろう	○社会の中で自分ができることは何だろう ○人間関係を円滑にするにはどうすればいいのだろう ○職業の社会的役割・働く意義とは何だろう	○地域や社会に向けてできることは何だろう ○ニーズを実現する設計・デザインのためには何をすればいいのだろう ○どのように自分を設計・デザインしていくのだろう
学習活動(概要)	学校の人々と仲良くなるためには、どうしたらいいのだろう 1 みんなの名前を覚えよう、自分の名前を覚えてもらおう 2 自己紹介をしよう 3 おにいさん、おねえさんにあいさつをしよう 4 学校で仕事をする人たちにあいさつをしよう 自分のことを自分でするために、何から始めたらいいのだろう 5 学校のきまりを知ろう 6 お片付けの大切さを知ろう 7 そうじの大切さを知ろう 家族のために、自分にできることは何だろう 8 家の仕事を知り、自分にできることは何かを考えよう 9 お手伝い作戦の計画を発表しよう 10～11 お手伝い作戦報告会	1年生のために自分ができることは何だろう 1 1年生のためになかよし会(歓迎会)を開こう 2 これから1年生にしてあげられることは何だろう 友達やクラスのために自分ができることは何だろう 3 新しい学年・学級に必要な仕事を考えよう 4 係活動を振り返ろう 身の周りの人には、どんな役割があるのだろう 5 見つけたよ、知ってるよ、こんな人 6～8学校の周りを探検していろいろな人に会おう 9 探検して分かったことをまとめよう 10～11 調べたことを発表しよう 12 これからのわたし	自己紹介をしよう 1 伝えよう自分のこと、見つめよう自分のこと 学校の周りにはどんな仕事があるのだろう 2 学校の周りにはどんな仕事があるかな 3 町探検から新しい仕事を発見(校外学習) 4～5他校の周りにはどんな仕事があるかな 6 どんな仕事があったか、まとめよう わたしたちのまわりのお仕事マスターを見つけよう 7～8お仕事マスターを見つめよう 9～10マスターのお仕事についてまとめよう 11 まとめたことを発信しよう わたしたちのまわりのマスターを見つけよう 12 友達のよさを発見しよう・自分のよさを確認しよう	人々のくらしを支える施設や人には、どのような役割があるのだろう 1 人々のくらしを支えるために地域にはどんな施設があるのだろう 2 自分の考えを伝えよう 3～6地域の人々のくらしを支えるために、施設や人はどうつながっているのだろう 7～8学んだことをまとめよう 9 学んだことを発信しよう 学校生活をよりよくするために、どんな役割が果たせるだろう 10～11学校や学級で担う役割を見直し、改善の手立てを考えよう 12 地域の一員としてのわたしたち	高学年に必要なことは何だろう 1 高学年の心構え、役割、責任を知り、目標を立てよう 2 新しい仲間を作ろう 「ものづくり」に携わる人は、どんな努力や工夫をしているのだろう <例1> 3 家電製品とわたしたちの生活との関わりを知ろう 4 家電製品の進化とわたしたちの生活を考えよう 5 工業生産を支える人々の役割と工夫を知ろう 6 ものづくりを支える人々のエコアイデア～企業講師から話を聞こう～ <例2> 3 自動車づくりの疑問を見つめよう 4～5働く人にインタビューしよう 6 働く人から学んだことをまとめよう 「ものづくり」に携わる人達が大切にしていることで、わたしたちが学ぶべきことは何だろう 7～9 今の自分たちにできることを考えよう 10～11 働く人の姿から学んだことをお世話になった企業の人に発信しよう 12～13 グループごとにまとめよう 14 自分たちの考えを発信しよう 自分らしさとは何だろう 15 自分の長所に気づき、自分らしさを発揮しよう	仕事にはどんな価値があるのだろう 1 知っている仕事とその価値について考えよう 2 身近な人から、働くことと生き方について学ぼう 3～5 職業人から生き方を学ぼう 6～8 学んだことをまとめよう 9～10 まとめたことを他校と情報交換し、情報を深めよう どうすれば自分がめざす生き方を見付けられるだろう 11～12 自分の将来の夢や目標を思い描こう 13～14 自分が目指す生き方を語り合おう 15 活動を振り返り、3年後の自分に手紙を書こう	人と関わる時に大切なことは何だろう 1 ソーシャルスキルを学ぼう 2 人と上手に関わっていくためには、どんなことに配慮しなければいけないかを知り、その能力を身につけよう 地域のために自分ができることは何だろう 3 社会のしくみに触れよう「職場見学をまとめよう」 4 マーケティングの手法を知ろう 5 [歴史・文化]の単元で調査した、つくば市のよさをもとに、地域が抱えている課題は何かを探り出そう 6～8 マーケティングから見えた課題を解決するためのプランを考えよう 9～10 改善プランを発表しよう 11 地域の改善プランをつくるための視点はどこにあったか振り返り、内容や方法を見直そう 12～13 改善プランを実行しよう 14 活動を振り返ろう 15 継続した活動を通して、地域がどのように変わってきたか、その変化の様子を見てみよう	人間関係を円滑にするにはどうすればいいのだろう 1 スキルアップのトレーニングを行って、社会的スキルを身に付けよう。 2～3 企業人や講師と連携し、社会人として必要なスキルについて考えよう 4 実社会で活躍する人がもっているソーシャルスキルについて考えよう 職業の社会的役割・働く意義とは何だろう 5 職業体験後の振り返りから、自分は何を感じ、学んだのかまとめる 6 職業の社会的意義を話し合いの中で考える。 7～10 体験のまとめのプレゼンテーションを作成する 11～12 プレゼンテーションを行う 13 振り返りを行う 14 自分の感じたこと・考えたことをワークシートにまとめる 15 他者の生き方を受け入れ、自分の内面に迫る	地域や社会に向けて何ができるだろう 1 さまざまな人の生き方や考え方を知ろう 2 今、地域や社会で問題になっていることにはどんなことがあるだろう ニーズを実現する設計・デザインのためには何をすればいいのだろう 3～5 設計をするために、リサーチをしよう 6～10 将来、大人になった時に、みんなが喜んでくれるもの・こと・人を考え、企画・デザインしよう 11～12 チームで再検討して、デザインしよう 13～14 スタディノートを活用し、プレゼンテーションを行う どのように自分を設計・デザインしていくのだろう 15 他者の企画・デザインを参考にして、関心を深めていこう
コミュニケーションスキルについて 児童・生徒の発達段階や実態に応じて、以下を適宜、実施することとする。 1) グループエンカウンター エンカウンターとは出会うという意味。学級づくりに活用。人間関係づくりや相互理解、協力して問題解決する力の育成。集団の持つプラスの力を最大限に引き出す方法。 2) ピアサポート活動 児童・生徒同士が互いに支えあえる関係をつくるプログラム。『ウォーミングアップ・主活動・振り返り』という流れを一単位として積み重ねる。 3) ソーシャルスキルトレーニング 相手理解・自分の思いや考えを適切に伝える。人間関係を円滑にする。問題解決・集団行動に参加する 4) アサーショントレーニング 対人場面で自分の伝えたいことをしっかりと伝えるためのトレーニング。断る・要求するといった葛藤場面での自己表現や、ほめる・感謝する・嬉しい気持ちを表す・援助を申し出るといった他者とのかかわりをより円滑にする社会的行動の獲得 5) アンガーマネジメント 自分の中に生じた怒りの対処法を段階的に学ぶ方法。『切れる』行動に対して、「切れる前の身体的感覚に焦点を当てる」「身体感覚を外在化しコントロールの対象とする」「感情をコントロールして会話する」などの役割を踏んで、怒りなどの否定的感情をコントロール可能な形にかえる。また、呼吸法や動作法、リラクセス法なども学ぶ。 6) ストレスマネジメント教育 さまざまなストレスに対する対処法を学ぶ。ストレスについての知識を学び、その後リラクゼーション・対処法を学ぶ。 7) ライフスキルトレーニング 自分自身の体や心、命を守り、健康に生きるためのトレーニング。「セルフエスティームの維持」「意思決定のスキル」「目標決定のスキル」などの獲得。喫煙・飲酒・薬物・性などの課題に対処する方法。 8) キャリアカウンセリ 職業生活に焦点を当てて、自己理解を図り、将来の生き方を考え、自分の目標に必要な力の育て方や、職業的な目標の意									
学びの3つのステップ	In				About			For	

■つくばスタイル科(キャリア)単元一覧

学年					1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	7 年生	8 年生	9 年生
単元名					大好き！ わたしの学校・家族	ふやそう！ 自分のできること	紹介しよう！ 人・地域・つくばの自慢	ふれあおう！ 人と人	見つめよう！ 社会・仲間・自分	広げよう！ 夢・希望	自分に気付こう！ 実社会に触れて学ぶ	自分を知ろう！ 実社会での体験	デザインしよう！ 将来の自分
主な内容					キャリア／健康・安全	キャリア／豊かな心	キャリア／歴史・文化	キャリア／環境／健康・安全	キャリア／環境／歴史・文化	キャリア／福祉／国際理解	キャリア	キャリア／健康・安全／福祉	キャリア／環境／福祉／科学技術
単元目標					○作業の準備や片付け、決められた時間やきまりを知り、守る。 (A2,B2) ○友達や周りの人にあいさつをしていくことで、関わり合いをもつ。 (C1,D1) ◎当番活動や家庭の仕事の手伝いに取り組み、みんなのために役立つ。 (D2,F1)	○自分の生活を振り返り、人に対して自分たちにできることを考える。 (A1, B1) ○交流会などの体験活動を通して、人との接し方を学ぶ。 (A2, C2) ◎身の周りで働いている人から、さまざまな人の役割を知ることの大切さを知る。 (E1,F2)	○町探検などの活動を通して、いろいろな職業があることを知る。 (A1) ○自分たちが見付けた仕事を、他校と連携を図り、伝え合い、共通点や相違点を考えることで、仕事についての知識を深める。 (B2,D2,E2) ◎自分が住む地域のよさ（自慢）を発見し、広めようと積極的に関わり行動する。 (C2,F2)	○互いの考えの共通点や相違点を知り、相手の気持ちを考えて行動する。 (A1) ○地域の安心・安全を支える人々の仕事についてまとめ、他者と意見交換し、さらに考えを深める。 (A2,C2, E1) ◎地域の人たちとつながり、支え合い、助け合っていくことの大切さを実感し、地域社会の一員として、自分たちにできることを考える。 (D2,F2)	○工業製品が自分たちの生活にもたらす便利さやくらしの変化に気付く。 (A1) ◎働く人とコミュニケーションを図ることを通して、仕事に対する思いや努力や工夫している点等について考えを深める。 (D2,E1) ○働く人たちから学んだことを生かし、自分たちにできることを考える。 (B2,C2,F2)	○身近な人と関わりながら、職業に対する考え方や生き方を知る。 (A2,F1) ◎職業人の仕事のやりがいや生き方について学んだことから、自分の生き方について考えを深める。 (B1,D1) ○将来の夢や希望をもち、中学生と語り合う。 (E2,F2)	◎コミュニケーションスキルを身に付け、人と上手に関わりながら活動し、自分にできることは何か考えることができる。 (B1, D1) ○マーケティング等の調査活動を通して、実社会にあったらよいものやみんなが望んでいるものを探り出す方法を理解する。 (A1,F1) ○学区をよりよくするための改善策を提言する。 (A2,E2)	○実社会で活動していくためには、相手を尊重しつつ自分の意見を言ったり、人間関係を円滑にしたりすることが必要であることを知る。 (B1,B2) ○職業人に触れたり聞いたりする中で、職業の社会的役割や意義に対して考えを深める。 (F1,F2) ◎体験で学んだことや今後の自分がこれからどう生きていくかについて、友達や保護者に発信することで、自己の生き方を追究する。 (C1,D2)	○リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら企画・デザインをすることの大切さを理解する。 (A2,C2) ◎さまざまなアイディアを出し合い、よりよいものを企画・デザインするために、企業の人からアドバイスをもらい、考えを修正しながら活動を進める。 (B2,E1) ○将来の夢や希望に向かって、自己の生き方を考える。 (D1,F2)
Ⅰ 思考に関するスキル	A	問題解決	A1	客観的 思考力									
			A2	問題発見力	○				○			○	
	B	自己マネジメント	B1	自己認識力						◎		○	
			B2	自立的修正力	○		○					○	◎
C	創造革新	C1	創造力	○								◎	
		C2	革新性(イノベーション)		○		◎		○				○
Ⅱ 行動に関するスキル	D	相互作用	D1	言語活用 力(コミュニケーション)	○					◎	◎		○
			D2	協働力(コホレーション)	◎		○		◎			◎	
Ⅲ 手段・道具に関するスキル	E	情報ICT	E1	情報活用 力		◎		○		◎			◎
			E2	ICT 活用 力			○			○		○	
Ⅳ 世界市民としての力	F	つくば市民	F1	地域や国際社会への市民性	◎					○	○	○	
			F2	キャリア設計力		◎		◎		○	○		○
学びの3つのステップ					In					About			For

会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議			
開催日時		令和6年5月15日（水）開会 9:30 閉会 11:30			
開催場所		つくば市立学園の森義務教育学校メディア室			
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課			
出席者	委員	高野二男 山崎裕一 石橋紀世 内藤 実 富江 晃 樋口直宏 野堀 憲 村上義孝 石黒正美 谷上智子 学園の森義務教育学校 校長：中野真粧美 副校長：澤木 努 教頭：池邊晃子、中原正人 教務主任：田村俊介、牧之段 拓			
	その他				
	事務局	教育局教育総務課課長：山岡めぐみ 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪恵理名 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0人	
非公開の場合はその理由					
議題		1 学校運営の基本方針について 2 学校の教育活動の紹介 3 熟議「互いを大切にした主体的で創造性のある学校づくり」 4 その他			
会議録署名人			確定年月日	令和 年 月 日	
会議次第	1 開会 2 選任通知書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 座長・副座長の選出				

6	協議
(1)	学校運営の基本方針について
(2)	学校の教育活動の紹介
(3)	熟議「互いを大切にした主体的で創造性のある学校づくり」
(4)	その他
7	閉会

<審議内容>

1 開会

事務局：ただ今から、令和6年度第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。

はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案としてつくば市立学園の森義務教育学校牧之段先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

参加委員：お願いします。

事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。

2 選任通知書交付

事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。

（「選任通知書」を石黒委員に交付）

続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。

学園の森義務教育学校で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として冨江委員を学園の森義務教育学校から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思います。

（冨江委員がこの時点では不在であった為、「委嘱状」は閉会間際に交付）

この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください

3 教育長挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育総務課、山岡が代読いたします。

事務局：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。本日はお忙しい中、第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を

快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支える。」ことが、いま必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みをいかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思っています。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

学園の森義務教育学校においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何ができるか、意見を出し合っていただければと考えています。つくば市の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしくお願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
 - 2 コミュニティ・スクールとは
 - 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは
- についてご説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管して

いる学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子どもを育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

学園の森義務教育学校は今年度、コミュニティ・スクール推進会議といって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会という、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べるができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目

標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、学園の森義務教育学校はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか。何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しをするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずで

す。地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること

②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること

③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること

④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ

⑤地域と学校が連携した様々な活動 地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる 子どもたちのためにご協力をよろしくお願いいたします。

以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。（無し）

5 座長・副座長の選出

事務局：協議の前に、座長と副座長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、令和6年度つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項第6条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選によって定める」とあります。本年度については、コミュニティ・スクールを立ち上げていくということもあり、各校と教育局で協議の上、座長、副座長につきまして提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

事務局としては、村上委員に座長を、石黒委員に副座長お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

6 協議

(1) 学校運営の基本方針について

村上座長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、学校より御説明をお願いします。

学園の森義務教育学校長（中野校長）：学園グランドデザイン（学園要覧）の説明

- ・教育目標「自分の可能性に挑戦し、創意をもって未来を切り開く学園生の育成」
- ・「人を大切にして笑顔あふれる学校」にしたいという思い
- ・スクールモットー 挑戦・創造・協働
- ・「挑戦王になる！」挑戦王宣言！→学園生の挑戦王宣言の紹介
- ・挑戦王の内容は全校集会等で紹介、称賛
- ・「校内の笑顔を増やしたい」という気持ち
- ・150名の職員、教員も挑戦王宣言
- ・3つのプロジェクト
- 生成AI・探究的な学び、ルールメイキング・特別活動、早寝早起き朝ごはん
- ・体力向上プログラム
- ・（挑戦だけでなく）創造にも力を入れていく係活動、学級活動、委員会活動、つくスタ生活科など

- ・CS 会議の皆様からの意見を生かしながら「人を大切にして笑顔あふれる学校」にしていきたい

(2) 学校の教育活動の紹介

学園の森義務教育学校（田村教諭）学校の説明

・学園の現状

→開校 7 年目、在籍数は 1797 名 組織目標は 2 つ

①リーディング DX スクール生成 AI パイロット校（全国で 52 校）

生成 AI プロジェクトチームの活動（全職員で）

②係活動の充実、ルールメイキング、ロング昼休みの設定

・学校行事

→入学式を 5 年ぶりに 6 クラス同時実施、授業参観、引き渡し訓練、9 年生修学旅行、運動会、体育祭の実施予定

・義務教育学校のよさを生かして

→6 年生の部活動見学、体験を早い時期から実施

→上級生が下級生への関わり パソコンの使い方、体力テストの計測など

→下級生が上級生への関わり 部活への応援メッセージなど

・地域の方に御協力いただいていること

→職場体験など

村上座長：御説明ありがとうございました。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。これを踏まえて、この推進会議においても、委員の皆様にご賛同への賛同をお願いしたいと思います。令和 6 年度学園・各校のグランドデザインに御賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：（拍手）

村上座長：ありがとうございました。校長先生におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

(3) 熟議

村上座長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを池邊教頭先生にお願いして、よろしいでしょうか。

池邊教頭：（承認）

村上座長：お引き受けくださりありがとうございます。では、先生よろしくお願いいたします。

池邊教頭：熟議のテーマと進め方の説明 理念を実現するには、職員だけでなく、地域や保護者、専門家のバックアップが必要。熟議の目的は、創造的な係活

動や委員会活動、つくスタやキャリア教育などでどのような体験を仕組んでいくか、こちらがどのようなサポートができるか

- ・各グループでの熟議約 60 分間

村上座長：熱心な御協議ありがとうございました。それでは、各グループで協議されたことの発表をお願いいたします。

Aグループ（発表者：牧之段教諭）

- ・つくばスタイル科における地域リソースの活用
- ・教員の意識改革も必要
- ・協力したいという思いをもっている保護者もいるはず

Bグループ（発表者：田村教諭）

- ・本校の良い点と課題を整理

→良い点：能力、元気、人間性、知的

→課題：基本的習慣（あいさつ）、体験（ゲストティーチャー機会不足）、自己有用感、個人内（能力の二極化、多様性への対応、習い事の多さに伴う余裕の無さ）

Cグループ（発表者：中原教頭）

理想：目指す児童生徒の姿＝笑顔（子供、保護者、教員も）

思い出→行事、遠足、特別な授業、体験的活動

→地域を大切にする、異学年交流

⇒つくスタを発展、探究的な学び（子供たちもいろんな才能がある、失敗も学び）

外部との連携：登下校 何ができるか←学校からの要望があると助かる

Dグループ（発表者：池邊教頭）

- ・みんなを笑顔にする学校
- ・地域のつながり＝子供たちのつながり
- ・地域のメリット 多様性のある子どもが集まっている（国・地域、個性）
- ・地域のつながりが希薄（コロナによる悪影響）
- ・地域でできることはないのか？⇒お祭りなどのイベントの企画
- ・地域のつながりが無いと有事の際に大変になるのではないか

村上座長：ただ今の発表について、御質問や御意見が」あればお願いします。

村上座長：発表者の皆さん、ファシリテーターの池邊先生ありがとうございました。最後に委員のみなさんから何かありますでしょうか（無し）

それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。

参加委員：（拍手）

事務局：村上座長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。以上をもちまして、令和6年度第1回学園の森義務教育学校コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

